



大 人 ひ  
切 一 と  
ナ 人 ひ  
リ ハ と  
り

ダイバーシティ推進の取り組み

同志社大学  
Doshisha University



# 学長からのメッセージ

1875年、創立者新島襄は「自から立ち、自から治むるの人民」の育成を目指して私学同志社英学校を京都に設立しました。創立以来、同志社教育の基本はキリスト教主義精神に基づく良心を手腕に運用する人物の育成です。宗教家として、そして教育者として新島は数多くの言葉を残していますが、本学に繋がる人々が強い思いで受け継いでいる言葉に、「人一人ハ大切ナリ」というものがあります。これは1885年に開催された同志社創立10周年記念演説の中で語されました。国際連合はSDGsの理念として「No one will be left behind」を掲げていますが、本学はそれよりもずっと前から、新島のこの言葉を重要なよりどころとして大学運営を行ってきました。

大学は、個人個人の多様な考え方を尊重できる環境でなければなりません。そして自身と異なる価値観や境遇を持つ他者を理解し、共生・共存する中で、その違いを新たな創造へ導く力を持つ人物を養成する必要があります。本学は、継続してダイバーシティ推進に取り組んできましたが、2020年度にはそれをより明確に社会に発信するために同志社大学ダイバーシティ推進宣言を制定して公表しました。今後も、さまざまな境遇・背景を持つ人たちが共存し、個がいっそう豊かに輝くダイバーシティ・キャンパスの実現を目指し、取組をさらに強化してまいります。



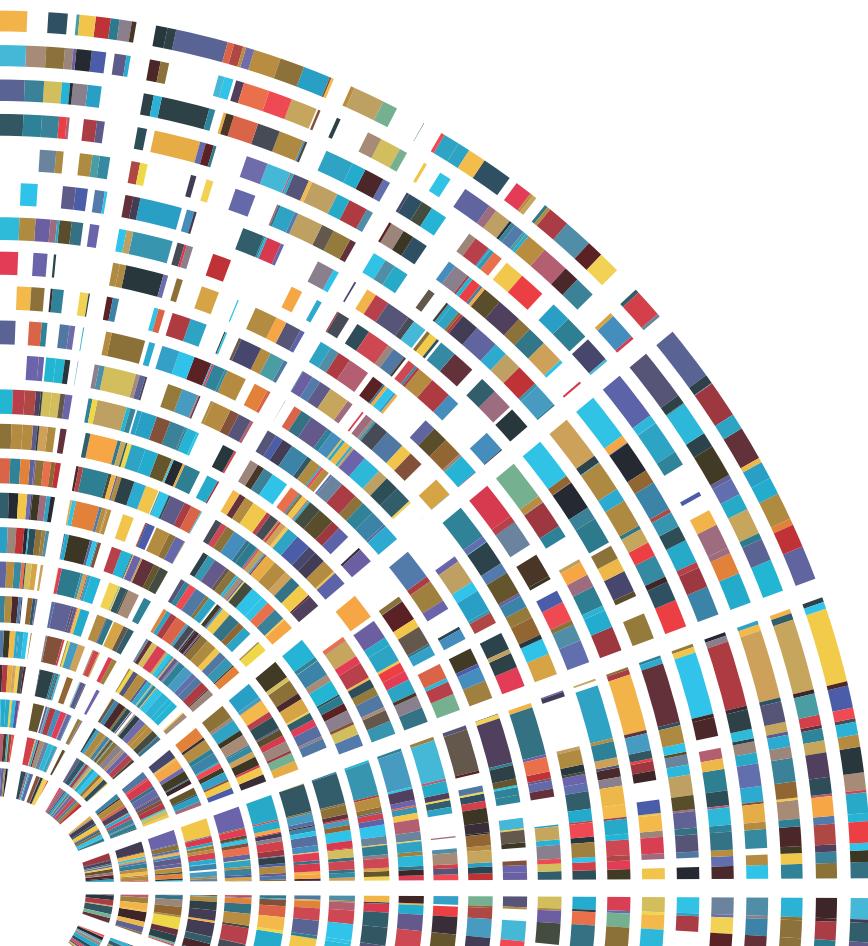
同志社大学学長  
**植木 朝子** UEKI Tomoko



# 大人 大切 ナ リ 人 一 ひ と ひ と り ハ

新島  
裏

数百名を集めて開かれた同志社創立10周年記念会での祝辞において新島は開口一番、渡米中に退学になつた数名の学生の消息に言及し、「ほんとうに彼らのためには涙を流さずにはいられない。彼らは眞の道を聞き眞の學問をしていた人であったが、ついに退学させられることになった。諸君よ、人ひとりは大切である。ひとりは大切である。過去はすでに過ぎたことなのでどうしようもない。しかし、今後については私たちはまことに用心深くありたいものである。」と涙ながらに語った。『現代語で読む新島襄』より



# 本学のダイバーシティ推進のあゆみ

創立者新島襄の「人一人ハ大切ナリ」という教育観には、彼が欧米の救貧院や障がい者施設における手厚い支援を目の当たりにしたことが影響したであろうことは想像に難くありません。また、共に同志社設立に奔走した山本覚馬が重複障がい者であったことや、新島の良心教育に触れた留岡幸助や山室軍平が、日本の社会福祉を切り拓いたこと等に鑑みれば、草創期から同志社はダイバーシティを尊重する風土にあったといえます。

その後も、本学が1931年に社会事業学専攻を設置し、また日本で最初に視覚障がい者に大学進学の門戸を開いたことを踏まえると、本学は新島の教育観を堅実に体現しようとしてきたといえます。つまり、本学の「人一人ハ大切ナリ」を礎とした良心教育の実践は、「ダイバーシティ推進」そのものであり、創立以来今日に至るまで、一貫してその理念が連綿と継承されてきたといえます。

**1876**

京都御苑内の  
J.D.デイヴィス邸内に  
「女子塾」を開設

**1931**

社会事業学専攻を  
文学部神学科に設置

**1937**

ヘレン・ケラー氏が  
同志社栄光館で講演

**1949**

点字受験対応開始  
(国内初)

**1972**

アメリカに本部を置く  
リベラル・アーツ・カレッジ  
の名門13校による  
留学プログラムである  
Associated Kyoto  
Program (AKP) の開設

**2000**

障がい学生支援制度発足  
男女共同参画推進室設置



**2009**

メディテーション  
ルーム設置



**2012**

食堂ハラール対応

**2016**

各種証明書類における  
性別表記削除

**2021**

# ダイバーシティ推進宣言

同志社大学は、「一国の良心とも謂ふ可き人々」の養成を掲げた創立者・新島襄の志を受け、「良心教育」を建学の精神としています。19世紀末に「良心」という訳語を与えられた英語の *conscience* の原義は、「共に知る」ということです。我々は、「良心教育」の実践による多様性と寛容に満ちたキャンパスで、異なる考え方や価値観を共に知ることにより、本学構成員が互いを理解し合い、一人ひとりを大切に思うことができる機会を創出しました。このことは、創立10周年記念演説において、「諸君ヨ人一人ハ大切ナリ」の言葉を残した新島の思いに通じています。

上記のような建学の精神と歴史とを踏まえ、自身と異なる価値観や境遇を持つ他者を理解し、共生、共存する中で、その違いを新たな創造へ導く力を持つ人物を養成するため、本学は、引き続き以下の取組を行って、ダイバーシティを推進します。

1. 国籍、性別、障がい、性的指向・性自認、文化、宗教、思想信条等、様々な背景を持つ本学構成員が、共に学び、共に働くことができるキャンパスを形成します。
2. 本学構成員が、教育や研究、その他の活動の場において個々の能力を十分に発揮し、多様な人々が等しく参画できる環境づくりを目指します。
3. 合理的配慮を要する本学構成員に対する支援体制を整え、社会的障壁の除去に対する理解の醸成を促進します。
4. ダイバーシティに対する意識の啓発を推進し、あらゆる人びとの人権を尊重できるダイバーシティの視点に立った人物を養成します。



日本人学生と外国人留学生が生活を共にし、  
学び合う本学初の教育寮となる「緑志寮」

文部科学省 令和3年度 科学技術人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(調査分析)」に選定。

創立以来、  
「人一人ハ大切ナリ」を礎とした  
良心教育を一貫して継承。

その理念であるダイバーシティの

# 未来と発展へ



同志社大学

上智大学

学長  
副学長(ダイバーシティ推進担当)

学長  
副学長(学術研究担当)

ダイバーシティ調査分析運営委員会

ダイバーシティ推進委員会

研究開発  
推進機構

男女共同  
参画推進室

国際連携  
推進機構

研究推進センター

ダイバーシティ推進委員会  
ダイバーシティ推進室

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ  
プロジェクト推進WG

スーパー・グローバル大学  
創成支援事業推進室

グローバル教育  
推進室

同志社大学  
ダイバーシティ研究センター

ダイバーシティ  
調査分析  
タスクフォース

上智大学  
ダイバーシティ・グローバルリサーチ部門

補助期間内  
(2021.9 - 2023.3)

ダイバーシティ調査分析タスクフォース

同志社大学  
ダイバーシティ研究センター

上智大学  
ダイバーシティ・グローバルリサーチ部門

同志社大学

ダイバーシティ調査分析  
運営委員会

上智大学

学内調査

両機関の学内教職員・博士課  
程学生等へのヒアリング調査

海外調査

Stanford University  
Harvard University  
University of Tübingen  
Mahidol University

国内機関調査

大規模調査では掬取れない  
現場の実情調査

国・各研究機関  
等のレベルでの  
活用方法

- 国策としての  
ファンディング・  
システム
- 認証制度

女性研究者が活躍できるよう  
な世界水準の環境およびしきけを  
日本の大学に適用するためには  
どのような課題があるか

私立大学の強みを生かしたダイバーシティ推進モデルを構築

補助期間終了後 (2023.4-)

推進モデルの実践と評価

- 両機関の推進目標と実行計画に反映→実施
- 推進状況を評価できるマネジメントチェックリストの運用

国立  
大学  
研究  
機関  
私立  
大学  
他機  
関への  
波及  
効果

- 世界水準の処方箋
- 私立大学の強みを  
生かした推進モデル

(2022年2月現在)

スチューデントダイバーシティ・  
アクセシビリティ支援室開室  
こんな相談について対応します。

- 障がい(身体・精神・発達)に関する相談
- 多様な性別や性的指向・性自認の相談

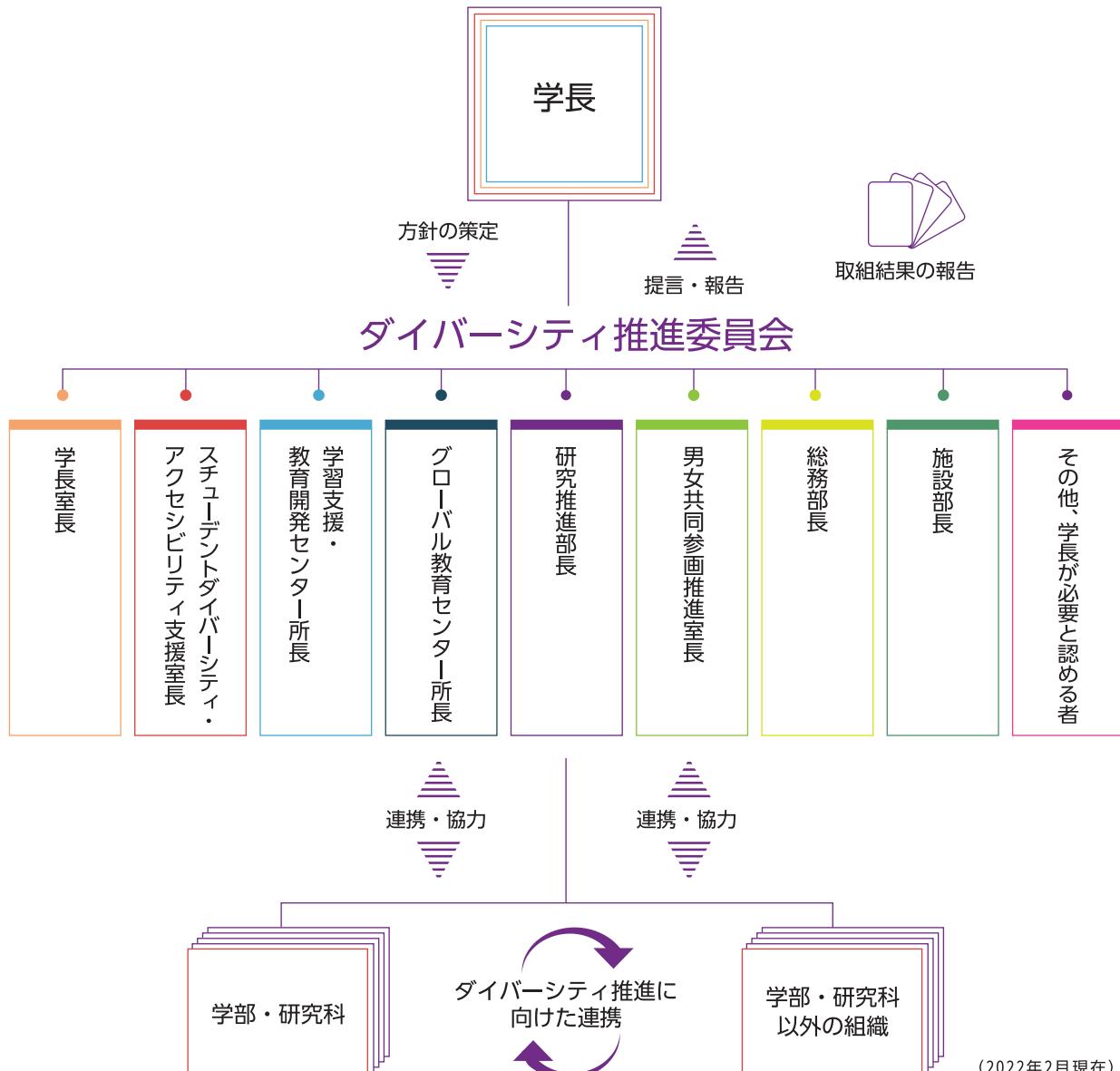
今後、多様性に関するセミナーなども随時開催していく予定です。

同志社大学サイト内

スチューデントダイバーシティ



# 同志社大学 ダイバーシティ推進委員会組織図



## [中心課題]

男女共同参画・ワークライフバランス  
障がい者支援  
多文化共生・国際理解  
SOGI (Sexual Orientation and Gender Identity)



[発行] 同志社大学 ダイバーシティ推進委員会

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

<https://www.doshisha.ac.jp>